



城山 幸助 先生
DT. Yukihiro Shiroyama

神奈川県 開業 颯(そう) 代表

1994年 北海道歯科技術専門学校卒業
1995年 東京医科歯科大学歯学部附属
歯科技工士専門学校実習科 卒業
1999年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科技工部 退職



“IPS e.max Press プレステクノロジーの可能性”

IPS e.max Pressとは90%以上含有されている二ケイ酸リチウムの針状結晶により400Mpa以上の強度をもつガラスセラミックスである。優れたシステムによる高い適合性と審美性を両立している。

4種類の異なった透明度をもつインゴットにより、さまざまな症例に適応した歯冠修復を可能にしている。

e.max Pressを始めるにあたり専用のプレスファーンズ【ivoclar vivadent社は1991年Empress発売よりプレステクノロジーを推奨しており、現在のプレスファーンズは3世代目にあたりさまざまなノウハウを詰め込み円熟期を迎えている】は必須ではあるが、それ以外は日々慣れ親しんだ材料、技工作業でオールセラミックの製作が可能となる。

なぜか？プレステクノロジーは、メタル鑄造による歯冠修復と変わらないロストワックス法によるものだからである。

これにより容易かつ適合性の高いものが操作可能となった。特にインレー、アンレー、ベニヤ等、耐火模型上でオールセラミックを製作していた以前に比べ、ロストワックス法での製作は時間も技工作業も簡略化され、システムによる材質的な安定、技工作業による適合性の安定が可能である。

また、従来のポーセレンの結晶構造とは異なる二ケイ酸リチウムの針状結晶により400Mpa以上の強度と天然歯に近似した耐磨耗度、そして天然歯のような発色と透明度を得ることに成功している。

今回は、材料の能力を100%引き出すための優れたシステムの使用、材料特性を生かした3つの技法での製作方法を説明します。日々の技工作業で忘れがち、細かいが重要なマニュアル外のこともお話しできればと思います。疑問点、トラブルなどは特別に時間を設けずその都度、お答えしていきたいと考えています。臨床での写真も踏まえつつ、答えは1つではないと考え、他にはどのような方法があるかというようなこともお話しできればと思っております。参加者全員で意見を共有し有意義な時間を持つことが出来たら良いのではないかと考えています。

当日はもちろん、すでに質問があるようでしたら、内容を送って頂いて、関係しそうな写真の用意などもできたらと思っております。

当日は、実際にデモすることは出来ませんがIV社員によります、2機種のプレスファーンズの実機を用いての説明、作業工程を模型を用いての説明の時間もっております。

納得した上で、次のステップとなります体験できる実習会の参加に繋がればうれしく思います。

皆様に会場でお会いするのを、楽しみにしています。

よろしくお願いいたします。

